

4- (2) 美保湾カタクチイワシ資源調査

渡辺 秀洋

目的

近年の鳥取県沿岸における漁獲対象魚種を見ると、ハマチ、サワラ、イカ類といった浮魚類の水揚量が多い。その中でもカタクチイワシについては、県西部の美保湾での水揚げが大半を占め、境港の代表的な水産加工品「ちりめんじゃこ・しらす干し」になくなくてはならない原料の魚となっている。また、すくい網のシラスは主に生鮮で扱われ、生シラスとして貴重な食材となっている。

しかしながら、美保湾におけるカタクチイワシの生態は未だ不明な点が多く、漁業者から解明が望まれている。そこで本調査においてはカタクチイワシの資源動態を把握するため、美保湾におけるカタクチイワシ漁の実態把握を行うことを目的とした。

方法

① 漁獲統計情報の収集

鳥取県漁業協同組合から送られてくる漁獲統計情報より、すくい網及び船曳網(1そう曳, 2そう曳)で漁獲されるカタクチイワシを「シラス銘柄」、「カタクチ銘柄」に分けて集計し、過去10年間である2015年以降の水揚高を整理した。

② 標本船調査

漁場を把握するために、すくい網1隻、すくい網と船曳網(1そう曳)の兼業船2隻及び船曳網(2そう曳)1隻の漁業者にそれぞれ標本船野帳記入を依頼した(2025年4月~2025年12月;すくい網1隻と船曳網(2そう曳)はカタクチイワシの漁獲はゼロであった)。

調査項目は、操業日、操業位置、漁獲物の種類、漁獲量、操業開始・終了時刻及び網入れ回数とした。なお、漁期は、すくい網が周年、船曳網(1そう曳)は10月15日~3月31日までとなっている。

結果

① 漁獲統計情報の収集

漁獲統計資料を集計したところ、2025年の水揚量は3.7トンで、前年比18.9%、平年(2020~2024年)比6.8%と大幅に減少し、2015年以降で最も少なくなった(図1)。

2025年の水揚金額は1,820千円であり、前年比

17.3%、前年比4.9%となった。

銘柄別の漁獲量をみると、2025年のシラスの漁獲量は3.1トンで前年比17.5%、平年(2020~2024年)比13.4%であった。一方、2025年のカタクチの漁獲量は600kgであり、前年比31.9%、前年比1.9%であった。

図2に示す月別水揚量をみると、シラス銘柄では1月に前年、平年を上回った。一方、秋の水揚量のピークは例年どおり11月にみられたが、水揚量は前年、平年を大幅に下回った。

カタクチ銘柄では、2月と4月に若干漁獲があったのみで漁期を通して低調だった。

② 標本船調査

②-1 操業状況

表1及び図3に標本船の月別操業状況を示す。操業は1月、4月、11月及び12月に確認され、操業回数は11月が42回と最も多く、次いで12月が39回、1月が31回、4月が6回であった。漁獲量は11月が455kgと最も多く、次いで1月が360kg、12月が285kg、4月が32kgであり、年間漁獲量は1,132kgであった。

②-2 漁法別の漁場利用状況

表2及び表3に漁法別の漁場利用状況を示す。すくい網では、富益沖が59.5%と最も高く、次いで一文字沖(24.3%)、四万ト岸壁前(16.2%)であった。

船曳網(1そう曳)では、夢みなとタワー南の利用割合が31.0%と最も高く、次いで和田沖(23.8%)、日吉津沖及び日野川沖(ともに20.2%)であった。

③-3 漁法別の操業実態

表4に月別・漁法別の操業実態を示す。すくい網による操業は1月及び4月に行われ、操業回数はそれぞれ28回、6回であった。船曳網(1そう曳)による操業は1月、11月及び12月に行われ、操業回数はそれぞれ3回、42回及び39回であった。

④-4 漁獲実態

1) 漁法別・月別・銘柄別漁獲量

表 5 及び表 6 に漁法別の月別・銘柄別漁獲量を示す。すくい網では、シラスが 1 月に 255kg, カタクチが 4 月に 32kg 漁獲された。船曳網 (1 そう曳) では、シラスが 11 月に 455kg, 12 月に 285kg 漁獲され、年間漁獲量は 740kg であった。また、1 月にはカエリが 105kg 漁獲された。一方、カタクチの漁獲は確認されなかった。

2) 漁法別・月別 CPUE

表 7 に漁法別の月別 CPUE を示す。すくい網の CPUE は 1 月が 8.4kg/回, 4 月が 5.3kg/回であった。船曳網 (1 そう曳) の CPUE は 1 月が 35.0kg/回と最も高く、11 月は 11.3kg/回, 12 月は 7.2kg/回であった。

2025 年の標本船調査では、操業は冬季 (1 月, 11 月, 12 月) に集中しており、漁獲の主体はシラスであった。特に 11 月及び 12 月の船曳網によるシラスの漁獲が年間漁獲量の大部分を占めた。一方、カタクチの漁獲は 4 月のすくい網による 32kg のみであり、年間を通じて低調であった。

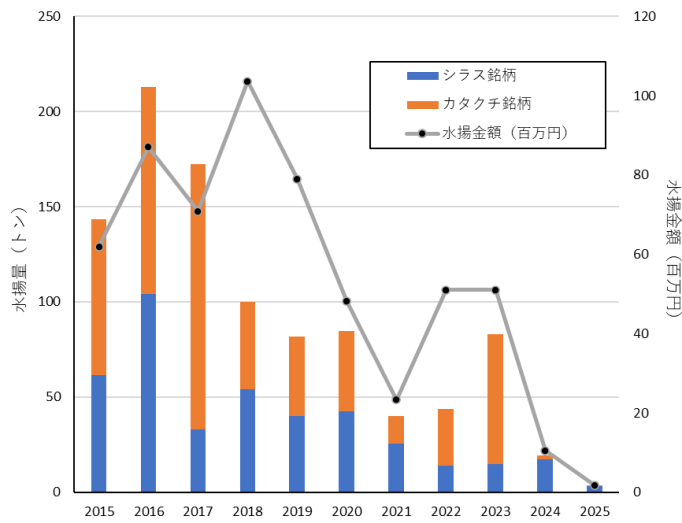


図1 すくい網・船曳網におけるカタクチイワシの水揚量と水揚金額の推移

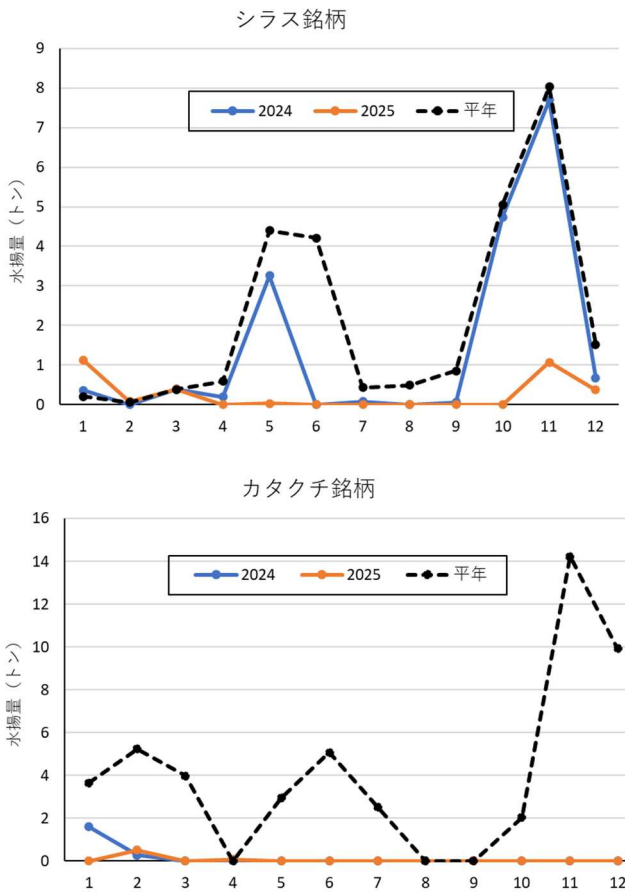


図2 銘柄・月別の水揚量の推移

表1 標本船月別操業状況

月	操業日数	操業回数	漁獲量 (kg)
1	4	31	360
4	1	6	32
11	12	42	455
12	7	39	285
計	24	118	1,132

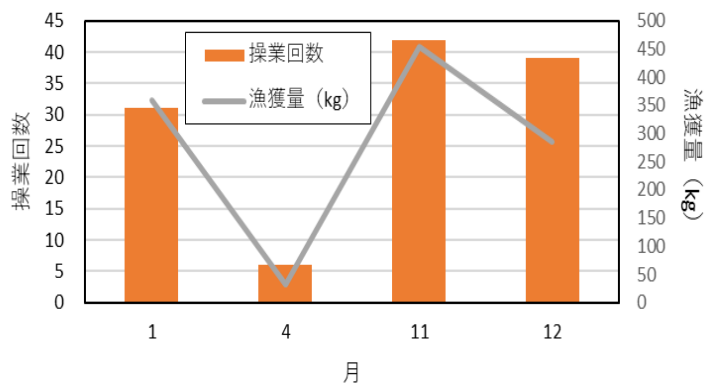


図3 標本船の月別操業回数及び漁獲量

表2 すくい網による漁場利用状況

操業場所	延べ操業回数	構成比 (%)
富益沖	22	59.5
一文字沖	9	24.3
四万ト岸壁前	6	16.2

表3 船曳網 (1 そう曳) による漁場利用状況

操業場所	延べ操業回数	構成比 (%)
夢みなとタワー南	26	31.0
和田沖	20	23.8
日吉津沖	17	20.2
日野川沖	17	20.2
夜見沖	4	4.8

表4 月別・漁法別操業実態

月	漁法	操業日数	操業回数	漁獲量 (kg)
1	すくい網	3	28	255
	船曳網 (一艘曳)	1	3	105
4	すくい網	1	6	32
11	船曳網 (一艘曳)	12	42	455
12	船曳網 (一艘曳)	7	39	285
計	-	24	118	1,132

表5 すくい網による月別・銘柄別漁獲量

単位:kg			
月	シラス	カエリ	カタクチ
1	255	0	0
2	0	0	0
3	0	0	0
4	0	0	32
5	0	0	0
6	0	0	0
7	0	0	0
8	0	0	0
9	0	0	0
10	0	0	0
11	0	0	0
12	0	0	0
計	255	0	32

表6 船曳網 (1 そう曳) による月別・銘柄別漁獲量

単位: kg			
月	シラス	カエリ	カタクチ
1	0	105	0
2	0	0	0
3	0	0	0
4	0	0	0
5	0	0	0
6	0	0	0
7	0	0	0
8	0	0	0
9	0	0	0
10	0	0	0
11	455	0	0
12	285	0	0
計	740	105	0

表7 漁法別の月別 CPUE

漁法	月	CPUE (kg/回)
すくい網	1	8.4
船曳網	1	35.0
すくい網	4	5.3
船曳網	11	11.3
船曳網	12	7.2